

府日学第 169 号 令和5年2月3日

健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会委員 各位

第25期・第10回分科会の開催について

標記について、下記のとおり開催しますので、ご出席ください。

議事次第案

1. 会議名 日本学術会議 健康・生活科学委員会
高齢者の健康分科会（第25期・第10回）
2. 日時 令和5年2月15日（水）18:00～19:30
3. 場所 オンライン会議 Zoom
4. 議題（予定）
 - （1）第9回高齢者の健康分科会議事録案の承認
 - （2）2023年7月29日公開シンポジウム案の紹介と会議
 - （3）第25期高齢者の健康分科会の表出と将来構想案
 - （4）その他

第9回 高齢者の健康分科会議事録（案）

日時：2022年11月20日（土）13:00～14:40（Zoom会議）

出席：住居委員長、須田副委員長、秋下委員、飯島委員、伊香賀委員、太田委員、田高委員、野口委員、安村委員、吉野委員

欠席：荒井委員、玉腰委員

1. 議事録の承認

2. 7月30日開催のシンポジウムふりかえり

3. 今後の活動について

「Withコロナ」の視点からシンポジウムを開催

1) 厚生労働省老健局

2) シンポジウム（登壇候補委員：敬称略）

- ・臨床医学系学術の役割と発揮：飯島
- ・健康・生活科学系学術の役割と発揮：検討
- ・社会福祉学系学術の役割と発揮：須田
- ・建築工学系学術の役割と発揮：伊香賀

3) 討論・一般質疑

4. 今後のスケジュール

・2023年2月末 次回分科会

・日程案：7月29日（土）12:00～13:00 分科会
13:00～15:30 シンポジウム

・シンポジウムのタイトルは次回の分科会で最終的に決定する

現段階での仮題：

「ウィズ・ポストコロナ時代における老年学の役割と発揮：次なるステージに向けて」

- ・厚生労働省老健局への依頼は荒井委員にお願いする
- ・26期の分科会委員構成についての検討
- ・その他

公開シンポジウム（幹事会申請書案）

「ウィズ・ポストコロナ時代における老年学の役割と発揮：
新たなステージに向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会、臨床医学委員会老化分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本老年学会、一般社団法人日本老年医学会、日本老年社会科学会、一般社団法人日本老年看護学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本介護福祉学会(以上、予定)
4. 日 時：令和5年(2023年)7月29日（土）13：00～15：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

我が国の新型コロナウイルス対策は、ウイルスの特性の変化やワクチン接種の進捗に応じて、これまでも感染者全員入院からの転換、国民の行動制限や経済活動の制限の見直しを行うなど、状況に応じた対策を展開してきた。特にオミクロン株は、若者の重症化リスクは低く、大部分の人は感染しても軽症で入院を要することは少ない。

一方で、高齢者のリスクは引き続き高い。感染の中心が飲食の場から高齢者施設、学校、保育所等の施設や家庭内感染へと変わってきた。これらを踏まえて、2022年9月8日に内閣府新型コロナウイルス感染症対策本部は、新たな行動制限を行わず、重症化リスクのある高齢者等を守ることに重点を置いて、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針とした。今後のウィズ・ポストコロナ時代を踏まえながら、新たなステージに向けて多領域横断的に、老年学の役割と発揮の見地から公開シンポジウムを開催したい。

8. 次第：公開シンポジウム案

総合司会 田高 悦子（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院保健科学研究所教授）

13：00～13:05 開会挨拶 住居 広士（日本学術会議連携会員、県立広島大学大学院教授）

座長 荒井 秀典（日本学術会議第二部会員、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

安村 誠司（日本学術会議第二部会員、福島県立医科大学理事・副学長、医学部教授）

Ⅰ 話題提供

13:05～13:25 古元 重和(厚生労働省老健局老人保健課長)

Ⅱ シンポジウム

13：30～13：50 「臨床医学系学術の役割と発揮—コロナフレイル及び諸課題から次の時代へどう反映するか」

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構教授）

13：50～14：20 「健康・生活科学系学術の役割と発揮 —フレイル・重症化予防に向けたプロアクティブ・ケア

：新たなサービス提供のフレームワーク」

森山 美知子（日本学術会議連携会員・広島大学大学院医系科学研究科・教授）

14：20～14：40 「社会政策系学術の役割と発揮 —介護保険サービス供給組織の近未来」須田 木綿子（日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授）

14：40～15：10 「建築工学系学術の役割と発揮—フレイル・感染症予防から見た住宅の課題と対策—」

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）

15：10～15：25 討論・一般質疑

15：25～15:30 閉会挨拶

秋下 雅弘（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科老年病学教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（シンポジウムの演者等は、主催分科会委員）

ウィズ・ポストコロナ時代における 老年学の役割と発揮：次なるステージに向けて

日時：令和5（2023）年7月29日（土）13：00～15：30
場所：オンラインZoom（定員800名予定）＋見逃し配信（予定）

お申込方法：オンラインフォームあるいは右QRコードからお願いします。
<https://forms.gle/obQCXwVQHwxUqTjk8> 締切：2023年7月23日
お申込み後に締め切り日までに、URLをメールにてお送りします。
メールが届かない場合、jp.carework@gmail.com までお問合せください。



総合司会 田高 悦子（北海道大学大学院保健科学研究院・教授）※
座長 荒井 秀典（国立長寿医療研究センター・理事長）※
安村 誠司（福島県立医科大学・理事兼副学長）※

委員長挨拶

住居 広土（県立広島大学大学院・特任教授）※

I 話題提供

古元 重和（厚生労働省老健局老人保健課・課長）

II シンポジスト

1) 臨床医学系学術の役割と発揮

コロナフレイル及び諸課題から次の時代へどう反映するか

飯島 勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構長・教授）※

2) 健康・生活科学系学術の役割と発揮

フレイル・重症化予防に向けたプロアクティブ・ケア～新たなサービス
提供のフレームワーク

森山 美知子（広島大学大学院医系科学研究科・教授）※

3) 社会政策系学術の役割と発揮

フレイル予防と介護保険サービス供給組織の近未来

須田 木綿子（東洋大学社会学部・教授）※

4) 建築工学系学術の役割と発揮

生活環境病予防に資する既存住宅の環境改善

伊香賀俊治（慶應義塾大学システムデザイン工学科・教授）※

閉会の辞

秋下 雅弘（東京大学大学院医学系研究科老年病学・教授）※

日本学術会議（会員 ※・連携会員 ※）

主催：日本学術会議 健康・生活科学委員会：高齢者の健康分科会
臨床医学委員会：老化分科会

後援：日本老年学会 日本老年医学会 日本老年社会科学会 日本保健福祉学会 日本建築学会
日本老年看護学会 日本社会福祉学会 日本介護福祉学会等予定



主催

日本学術会議
健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会
臨床医学委員会老化分科会

公開シンポジウム

ウィズ・ポストコロナ時代における 老年学の役割と発揮： 高齢者の健康・生活の視点から



日時：令和4年(2023年)7月29日(土)13:00~15:30

場所：オンラインZoom開催

無料&どなたでもご参加いただけます。定員800名



次第

総合司会 田高 悦子(北海道大学大学院保健科学研究院教授※)

委員長挨拶 住居 広士(県立広島大学大学院教授※)

座長 荒井 秀典(国立長寿医療研究センター理事長※)

安村 誠司(福島県立医科大学 理事兼副学長※)

シンポジスト

1)「臨床医学系学術の役割と発揮 —コロナフレイル及び諸課題の再考—」

飯島 勝矢(東京大学高齢社会総合研究機構教授※)

2)「健康・生活科学系学術の役割と発揮 —生活機能低下リスクとその予防—」

玉腰 暁子(北海道大学大学院医学研究院教授※)

3)「社会福祉学系学術の役割と発揮—これからの高齢者健康福祉政策の方向と対応システム—」

野口 定久(佐久大学人間福祉学部長※)

4)「建築工学系学術の役割と発揮—フレイル・感染症予防から見た住宅の課題と対策—」

伊香賀 俊治(慶應義塾大学システムデザイン工学科教授※)

講師・コメンテーター 鷲見 学(厚生労働省医政局地域医療計画課長)

閉会挨拶 須田木綿子(東洋大学社会学部教授※)

日本学術会議会員高齢者の健康分科会委員(会員※・連携会員※)

お申込方法

1. お申込はオンラインフォームからお願いします。(2022年7月20日締め切り)
右のQRコードからもアクセスできます。

<https://forms.gle/obQCXwVQHwxUqTjk8>



2. お申込み後、後日、オンライン会議のURLをメールにてお送りします。

メールが届かない場合、お問合せ先 jp.carework@gmail.com までお問合せください。(2022年4月25日付)

後援：一般社団法人日本老年医学会、日本老年社会科学会、一般社団法人日本老年看護学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本介護福祉学会(以上、予定)